

最新成果の発信と未来への人材育成 ― 公開講座

高大接続「ようこそ君も新大生」

新潟大学では、県内の高校との連携を強め、高校生に対して大学の魅力を知ってもらうことを目的として、高校生に参加を募り模擬授業を実施している。2006年度の模擬授業は、2006年8月5～6日の2日間にわたり、新潟大学と長岡、上越を会場として、合計4つのコースが企画された。このうち、災害復興科学センターでは「中越地震に学ぶ」をテーマとして、4コマの講義を行った。

本センターでの担当は、複合防災分野のト部厚志、農学部分野の三沢眞一、アーカイブス分野の矢田俊文、危機管理分野の田村圭子が担当した。受講生は40名ほどであった。各テーマと概要を以下に示す。



写真－1 講義の様子

ト部 厚志：9：20～10：25：タイトル「中越地震では、何が起こったのか」

概要（配布資料より）「平成16年の10月に発生した新潟県中越地震では、いったい何が起こっていたのでしょうか。被災地から離れたところに住んでいるとテレビで見ていただけで、現地では何が起こっていたのかを知ることは大変です。どんな地震だったのか、どんな被害があったのか、建物はどんな風に壊れ、どこでたくさんの被害があったのか、建物被害の原因は何か、などから、自衛隊は何をしてくれたのかまでを振り返ってみたいと思います。また、地震が新潟の近くで起こったら新潟市は、どんな災害が起こるのかについても少し考えてみたいと思います。」

2004年のの中越地震について、災害の概要と建物被害や土砂災害などについて、現地の被災写真を解説しながら、被害の実態を説明した。

三沢 眞一：10：40～11：45：タイトル「中越大地震における農地の被害と農業復興の課題」

概要（配布資料より）「中越大地震では、被災地が中山間地であることが大きい特徴として挙げられています。この中山間地の主要な産業は農業ですが、農業の基盤である農地や道路それに水路といった農業施設が大きい被害を受けました。いったいどのような被害を受けて、現在それがどのように復元しているのでしょうか？ また中山間地では、過疎化、高齢化が進み、農業の現状維持が困難になりつつあります。このような山間集落の農業はただ農地を復元すれば良いというわけにはいきません。どうやったらこのような地域の農業が活性化するのか考えてみましょう。」

中越地震における農地の被害について、被害の概要を説明するとともに、農地の復旧について取り組みなどが紹介された。

矢田 俊文：12：45～13：50：タイトル「中越地震被災地からの文化財・歴史資料救出の取り組み」

概要（配布資料より）「中越地震被災地からの文化財・歴史資料救出活動とその意義についてお話しします。中越地震以後、文化財・歴史資料を専門とする新潟大学をはじめとした県内の大学研究者・自治体職員・文書館職員・博物館学芸員・高校教員・大学生は、救出活動にあたってきました。2004年11月には、2日間かけて小千谷市A家の蔵2棟から文化財・歴史資料2トントラック4台分を運び出しました。また、雪解けをまって山古志地域からは、のべ105人で、2005年5月21、22日、4トントラック3台、2トントラック6台分の民具を搬出しました。搬出した資料の目録作成作業も行っています。授業では、救出活動を紹介し、そのような活動がどういう意義をもつのかについて考えます。」

地震によって、個人所有の蔵や民族資料館などの施設が被災した。被災した建物の中から貴重資料や民族資料などを救出して、資料の整理や保管が行われた様子などが紹介された。

田村 圭子：14：05～15：10：タイトル「災害時の人間心理・人間行動」

概要（配布資料より）「災害……「昨日と同じような明日」そんな私たちの日々の暮らしを根底から揺るがす巨大な力。災害によってもたらされた非日常の中で人間はいったい何を考え、どのような行動をとるのでしょうか。過去の災害からの教訓をクイズ形式で学びます。」

受講生に数名ずつのグループを作らせて、グループごとに災害に関するクイズに答えさせる形式の講義が行われた。災害時の避難所で行われている知らないもの同士でグループとなり、リーダーを決めて課題に対応していくということを、クイズを通じて経験させる参加型の講義が行われた。

（文責：防災部門・複合防災分野・ト部 厚志）